

# 除草の効率的な方法について

上農は草を見ずして草を取る、中農は草見してから草を取るということわざがあります。  
(優れた農業者) (普通の農業者)

出来れば草1本1本取る作業は、出来るだけ避けたいものです。

## ① 発芽にスイッチが入った雑草の種子を乾燥、熱中症で枯らす方法

雨が降って、晴れると地温も上がり、土中の雑草の種に発芽のスイッチが入ります。その晴れ間のある時に、雑草が地上に見えなくても圃場の表面をこするように表土を動かし、発芽しかけた雑草の種を直射日光に当て、また表土を乾燥させ、脱水症状にしまうことです。(いわゆる雑草種子の熱中症で、枯らしてしまう方法です) 一瞬で、何百~何万という種子を枯らすことができます)

手作業では除草グワを用いる

広いところでは管理機の土寄せや攪拌



## ② 日光を遮断して、雑草が生長するために必要な光合成を止めてしまう方法

黒ポリマルチなどで、作物以外の地表を被覆して雑草の生長を止めてしまいます。また、敷き藁など後々すきこめられるようなもので、地表を被覆する方法などがあります。

## ③ 作物の畝間を麦や牧草で被覆(マルチ)して、雑草の生育を防ぐ方法 草を草で防ぐ



この写真は麦踏をしているところ  
若い麦の下草の中を、カボチャのつる  
が伸びていく

間作として目的の野菜の畝間に、小松菜  
や水菜など比較的短期間に収穫できる葉物  
野菜などを間作し、雑草の生育を防ぎ、収  
穫物も得る方法もあります。

(農文協「混植・混作・輪作の知恵」) 参考

2021/7/23